

今までも、そしてこれからも、地域の子育てを応援！

★沿革

住吉第二地区民生委員児童委員は、2000年11月に子育て交流会を立ち上げました。

当初は保健所で開催された「親子遊び」を参考に、手探りでスタートとなりました。そこから20年、多い時には50組近くの親子が参加する、地域の子育て交流の場となりました。ここ3年は新型コロナウイルスの影響を受け、交流の場を設けることが難しくなっていますが、これからも粘り強く子育て世代を応援していきたいと思ひます。



◀地域の保育士さんと一緒に手遊びやふれあい遊びを楽しむ様子



▶民生委員・児童委員の男性陣がベビーカーの整理と警備を担当してくれるので、安心して参加できます

◀最初は緊張していたお母さんたちも、次第に慣れてきて楽しく交流をしています(木月4丁目共和会館の様子)



▶参加者同士の間隔をあけて、消毒や換気に気を付けて開催しています(刈宿町会館の様子)



★コロナ禍でも歩みを止めず・・・

毎月第4金曜日(8月と12月は休み)10時から1時間半ほど、刈宿町会館と木月四丁目共和会館で交互に開催しています。0～7か月の乳児とその親子を対象に、完全予約制で6～10組限定で、講師を招いて、保健師とともに交流会を行っています

★子育て交流会・スタッフ代表より

最初は数組の参加者で始まった交流会の特徴はリピーターが多いので顔馴染みになること。卒業の際に「ありがとうございました。」と挨拶を受けた時、初めて交流会に参加した時のちょっと不安そうな顔だったママ、数か月後には色々な経験で自信が付き、「ベテランママ」に変身した姿を見た時、それらの感激は会を続けて行ける原動力になっています。

また、数か月の間にハイハイができるようになったり、はじめて歩いたりしたのを目の当たりにした時には、赤ちゃんの成長の素晴らしさに感動します。

新型コロナウイルスによる感染症が流行してからも年に数回、開催しています。参加されたご家族は、「コロナ時代」の社会や暮らしの変化に対応して、離乳食が始まるまではパパ、離乳食がはじまったらママが子育て担当を分担して、自宅でのリモートの仕事と出勤しての仕事と子育てを両立させたりして時代を感じさせてくれます。

最後になりますが、交流会を継続することができるのも、地域の方々のご協力と、仁上会長が見守ってくださっているからだ感謝しております。

(民生委員児童委員 小池 敏子)

★子育て交流会に協力いただいている皆様の声★

学ぶことは勿論、気の合う仲間づくりができる子育てサロン。そこに集うサポーターさんたちは温かくて力強い。色んな場所、人に繋がっていくことは、活動の糧となります。このような素敵な場所を育てて下さりありがとうございます。

(助産師 母乳ケア 子育て・よるづ相談の 小野山 利江子)

地域との関わりが少なくなっている昨今、交流会に来ることでママ友を作り、お帰りになる姿が見られるを嬉しく思っています。

(民生委員児童委員 河原 智加恵)

お子様、お父様、お母様が少しでも楽しい時間を過ごすことができればと思い、参加させていただいております。地域の皆さんと一緒に、遊んだり歌ったりすることは、いろいろな面で勉強にもなります。

参加されている皆さんのコミュニケーションの場として、大切にしたいと思っています。今後とも宜しくお願いします。

(かりやど保育園園長 鈴木 紀子)

子育て中の親にとって、子育て交流会で過ごすひとときは、心の支えになっていると感じます。私たちもおはなし会を通じて、心のゆとりやいやしを感じてもらえるようにこれからも協力していければと思います。

(読み聞かせボランティア おはなしもり 滝西 敦子)

誰もが経験したことのないコロナ禍で、お母さん、お父さん、そしてお子さんに対してなかなか思うように、お力になれず、心苦しいこともありました。それでもみなさん、子どもたちの事を一番に考えてくれて、笑顔で参加してくださいました。

「子育て交流会」は、公的な支援と地域の皆様のご協力で、ここまで続いています。これからも頑張りましょう。

(民生委員児童委員 電谷 ひとみ)

私たち男性陣は、会場設営と警備要員として参加しています。主に自転車やベビーカーを整理しながらのお出迎えやお見送りです。

少しでも皆様の安心安全に繋がれば、と願っております。

新型コロナウイルスの流行前のことですが、公園で遊んでいた母娘から「子育て交流会の卒業生です。交流会ではとても助けていただいたので、もっと続けたいかったです」と声を掛けられました。

裏方を覚えてくれていたことに感謝すると同時に、この活動の意義を再認識させてもらった「ママからの一言」でした。

(民生委員児童委員 伊部 邦雄)